

はしがき

一橋大学創立 150 年史準備室長

江夏 由樹

一橋大学は 2025 年に創立 150 周年を迎える。2014 年 4 月、その準備のために、「一橋大学創立 150 年史準備室」(以下、「準備室」と記す)が小平研究保存図書館のなかに設けられた。これまで地道に活動を続けてきた「学園史資料室」と連携するなかで、準備室は創立 150 周年の記念事業に向けた作業に着手している。本ニューズレターの刊行もその一つである。

創立 150 周年事業を本格的に展開していくうえで、ここでは、次の二点を確認しておきたい。第一に、記念事業を推進する大学としての体制・組織の整備である。現在、準備室には特任教員 1 名、学園史資料室には契約職員 1 名が配置されているが、その学内における制度的位置づけは必ずしも明確でない。まずは、大学執行部の責任のもとに、創立 150 周年記念事業推進のための正式な委員会を立ち上げることが急務である。150 周年までに残されている時間はわずかに 10 年である。大学が明確な方針を提示し、その方針を機動的に具体化するための体制の確立が期待される。その際、100 周年の記念事業の経験を活かし、大学の教職員だけでなく、本学卒業生が 150 周年記念事業のなかで重要な役割を担うこと、具体的には、如水会との密接な連携関係を構築していくことが強く望まれる。

第二に、「150 年史」の編纂を進めるうえで、大学の所蔵する一次資料の蒐集・整理・編纂、そのための大学文書館の設立が課題となってくるであろう。例えば、創立百周年記念事業においても、大学資料の蒐集・整理は精力的に行われており、その成果として、大学、如水会の編纂による一連の資料集の刊行が行われた。大学史に限らず、歴史は様々な視点から、多様に検証されるものであり、そのためにも一次資料の蒐集・整理を怠ってはならない。「公文書管理法」の成立等を契機として、近年、多くの有力大学では大学文書館の設立、そこでの歴史編纂が進んでいる。本学の場合、すでに、文書館設立のための十分なスペースが小平研究保存図書館の内部に確保されている。本学の歴史が日本近代史の歩みと深く関わっていることを考えても、一橋大学における文書館設立は急がなくてはならない課題である。

本ニューズレターは、今後、150 周年事業に向けての情報交換の場として、その役割を果たしていくであろう。本誌への寄稿を快諾してくださった斎藤修名誉教授、西沢保名誉教授に深く感謝したい。斎藤教授が、附属図書館長を務められていた時代から、大学文書館設立の必要性を呼びかけていたことは、「編集後記」にある通りである。また、本誌の編集・刊行については、附属図書館に大変お世話になった。記してお礼を申し上げたい。